【OIE 情報】台湾における狂犬病の発生について

平成 25 年８月 28 日
動　物　衛　生　課

台湾における狂犬病の発生について、OIEへ追加報告がありましたのでお知らせいたします。本報告は2013年7月17日付けの発生報告の続報（続報20）です。

なお、本年7月16日付けの台湾政府による狂犬病確定診断の公表を受け、農林水産省は7月17日より台湾を狂犬病の非清浄地域として取り扱っており、7月25日付けで指定地域（農林水産大臣が認めている狂犬病の清浄国・地域）から削除しました。

出典：OIEウェブサイト（2013年８月27日付け）
http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13980
（OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。）

【概要】
・発生数：３件　（続報 20）
・発生日：2013 年7月 29 日、８月 23 日、24 日
・OIE への報告日：2013 年８月 27 日
・臨床所見あり

【発生状況】
・発生場所：
7月 29 日：南投県　魚池郷
８月 23 日：雲林県　古坑郷
８月 24 日：高雄市　甲仙区
・発生３件の合計（全てイタチアナグマ１頭での発生）

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
イタチアナグマ*		3	3	0	0

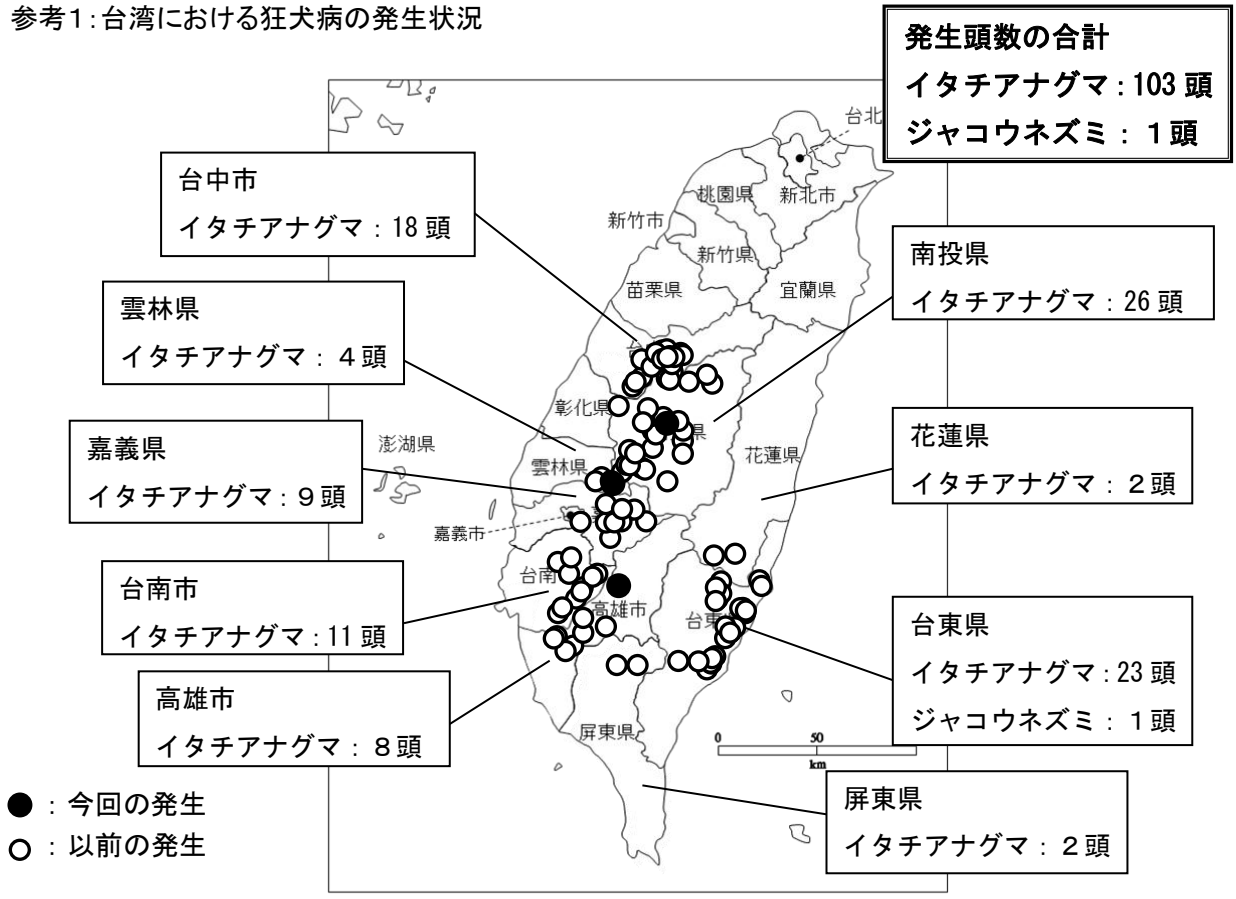
＊：中国イタチアナグマ（原文：Chinese Ferret-badger: Melogale moschata (Mustelidae)）

【疫学情報】
・感染源：不明又は調査中
・家畜衛生試験所（国立研究所）は3頭の野生のイタチアナグマについて、直接蛍光抗体検査によって狂犬病ウイルス感染を確認した（南投県１頭、雲林県１頭、高雄市１頭）。
・感染したイタチアナグマが回収された地域において、犬猫に対する強化ワクチン接種対応が継続され、モニタリングが実施されているところ。

【対応】
・隔離
・スクリーニング
・発生に応じたワクチン接種実施
・患畜を治療対象としない

【診断】
直接蛍光抗体検査（FAT）：陽性（2013年８月23日、26日、家畜衛生試験所（国立研究所））

参考1:台湾における狂犬病の発生状況



（注）地図上の発生地点は OIE 情報に基づく（台湾当局が公表している地図とは一致していない場合がある）

参考２：台湾行政院農業委員会家畜衛生試験所公表資料（2013 年 8 月 16 日付け）
「2013 年の台湾の狂犬病ウイルスの遺伝子配列分析」
http://www.nvri.gov.tw/Module/NewsContent/NewsFile/900/861.pdf
※本情報は、台湾行政院家畜衛生試験所が、8 月 16 日に公表した情報について、機械翻訳等に基づき仮抄訳したものですので、正確さを求める場合には出典元のリンクも併せて御確認下さい。

（1）台湾のイタチアナグマから分離されたウイルス株の糖たん白質遺伝子についての分析結果
【塩基配列】
・台湾の分離株間の相同性：91.0～99.9%
・中国大陸のイタチアナグマからの分離株との相同性：84.4～88.5%
・フィリピンの犬からの分離株との相同性：.87.0～88.6%
【塩基配列から推定されるアミノ酸配列】
・台湾の分離株間の相同性：93.1～100%
・中国大陸のイタチアナグマからの分離株との相同性：90.1～92.4%
・フィリピンの人及び犬からの分離株との相同性：92.2～93.1%

（2）台湾のイタチアナグマから分離されたウイルス株の核たん白質遺伝子についての分析結果

【塩基配列】

・台湾の分離株間の相同性：91.9～100%

・中国大陸のイタチアナグマからの分離株との相同性：87.6～90.0%

・フィリピンの人及び犬からの分離株との相同性：87.8～89.4%

【塩基配列から推定されるアミノ酸配列】

・台湾の分離株間の相同性：97.6～99.8%

・中国大陸のイタチアナグマからの分離株との相同性：96.7～98.0%

・フィリピンの犬からの分離株との相同性：96.7～98.7%

（3）台湾のイタチアナグマから分離されたウイルス株の基質たん白質遺伝子についての分析結果

【塩基配列】

・台湾の分離株間の相同性：92.9～100%

・中国大陸のイタチアナグマからの分離株との相同性：86.5～91.3%

・フィリピンの分離株との相同性：相関する配列がないため未分析

【塩基配列から推定されるアミノ酸配列】

・台湾の分離株間の相同性：95.1～99.5%

・中国大陸のイタチアナグマからの分離株との相同性：92.1～97.0%

・フィリピンの分離株との相同性：相関する配列がないため未分析

これまでに台湾で分離されている狂犬病ウイルスの遺伝子配列を分析した結果、地域により３つの群に分けることが可能。また、台湾、中国（一部）及びフィリピンのイタチアナグマ、犬及び人で分離された狂犬病ウイルスは同一の clonal group に属すること、台湾のイタチアナグマの狂犬病ウイルスは１つの系統（Lineage）に属することが示された。